

「地方自治と子ども施策」  
全国自治体シンポジウム 2013in 松本  
—奈良市の子ども条例検討における子ども参加の取り組み—  
報 告 書

平成25年10月  
奈良市子ども未来部子ども政策課

# 目 次

第1章 概要	1
1 趣旨	1
2 開催日程	1
3 開催場所	1
4 主催	1
5 第4分科会	2
6 奈良市報告者	2
第2章 奈良市報告の内容	3
1 奈良市の子ども条例検討における子ども参加の取り組みについて	3
2 平成24年度未来をひらく子どもワークショップの内容について	6
3 平成25年度未来をひらく子どもワークショップの内容について	8
4 未来をひらく子どもシンポジウムの内容について	10
5 「子ども参加」について感想	12
6 質疑応答	13
資料編	19
1 奈良市報告用パワーポイント資料	19
2 奈良市報告資料	33

# 第1章 概要

## 1 趣旨

「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウムは、地方自治のもとで地域において子ども支援や子育て支援にむけた子ども施策のあり方やまちづくりの展望を見出すために2002年から毎年開催されています。

このシンポジウムは、子ども施策・事業のあり方やまちづくりの展望を見出すために求められているものは何か、どのようにすれば実現できるのかなどについて、自治体関係者と研究者・専門家などが連携・協力をしながら、情報・意見交換や研修をする機会であり、さらに創意工夫ある取り組みをしている自治体をネットワークしていく機会となっています。また、このシンポジウムには、自治体職員や研究者・専門家にとどまらず、子ども施策に関心を寄せる議員や多くの市民・NPOなども参加しています。

このシンポジウムの分科会「子ども参加」において、奈良市の子ども条例検討における子ども参加の取り組みについて、報告してもらいたいとの要請がシンポジウムの実行委員会からあり、奈良市の取り組みについて、全国に発信していくことは有意義であると考えられるため、分科会において報告を行いました。

## 2 開催日程

- |                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| (1) 平成25年10月19日(土) 午後1時～午後5時45分 | 全体会 |
| (2) 平成25年10月20日(日) 午前9時30分～午後4時 | 分科会 |
- ・第1分科会 子どもの相談・救済
  - ・第2分科会 子ども虐待防止
  - ・第3分科会 子どもの居場所
  - ・第4分科会 子ども参加(奈良市報告)
  - ・第5分科会 子ども計画
  - ・第6分科会 子ども条例
  - ・第7分科会 子どもと健康

## 3 開催場所

松本市中央公民館(Mウィング) (長野県松本市中央1-18-1)

## 4 主催

「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム2013実行委員会・松本市

## 5 第4分科会

- (1) 全体テーマ 子どもにやさしいまちづくりと子ども参加
- (2) コーディネーター  
喜多 明人（早稲田大学）、住友 剛（京都精華大学）、林 大介（東洋大学）
- (3) 内容
- ・ 基調報告 子ども参加支援のこれまでとこれから（9:30 - 10:00）  
喜多 明人（早稲田大学）
  - ・ 子ども条例づくりにおける子ども参加の意義（10:00 - 11:00）  
塚原 仁（長野県健康福祉部こども・家庭課）
  - ・ 奈良市における子ども条例検討子どもワークショップの活動（11:10 - 12:00）
  - ・ 午前中の報告の振り返り（13:30 - 13:45）
  - 特別発言 子どもの権利に関する条例とせんなん子ども会議（13:45 - 14:00）  
古藤 典子（泉南市教育委員会）
  - ・ 地域・まちづくりと子ども参加（14:00 - 15:00）  
一茅野市の子ども参加～子ども会議から「ぼくらの未来プロジェクトへ」  
半田 裕（茅野市・子ども部こども課）
  - ・ 子ども会議と広報・地域の支え手への働きかけ（15:00 - 16:00）  
一川崎市の子ども会議 行政区、中学校区での実施状況  
宮越 隆夫（川崎市子ども会議推進委員会）

## 6 奈良市報告者

### (1) 奈良市

奈良市の子ども条例検討における子ども参加の取り組みについて

子ども未来部子ども政策課 企画調整係長 おかだ たかし  
岡田 宇司

### (2) 子ども参加者

#### ① 平成24年度未来をひらく子どもワークショップの内容について

奈良市立飛鳥中学校2年 いなだ ゆうき  
稲田 悠希

#### ② 平成25年度未来をひらく子どもワークショップの内容について

奈良市立富雄中学校2年 ふじい ともみ  
藤井 朋美

#### ③ 未来をひらく子どもシンポジウムの内容について

奈良市立飛鳥中学校2年 たお さえ  
田尾 紗衣

## 第2章 奈良市報告の内容

### 1 奈良市の子ども条例検討における子ども参加の取り組みについて

子ども未来部子ども政策課 企画調整係長 岡田 宇司

奈良市における子ども条例検討子どもワークショップの取り組みにつきまして、ご報告をさせていただきます。

奈良市では、児童虐待、いじめや不登校、ひきこもりなど様々な子どもを取り巻く社会環境が悪化している中で、子ども達が将来に夢と希望を持って、安心して暮らし、そして生き活きと成長していけるような、そうした子どもにやさしいまちづくりを目指して、その羅針盤となるような子ども条例の検討を進めています。



この条例を検討していただくために、子どもの権利条約総合研究所の浜田先生を委員長として奈良市子ども条例検討委員会を平成23年3月に設置しました。そして、これまでに11回の検討委員会を開催し、議論を重ねていただきましたが、その中で、条例の検討に当たっては、当事者であります子ども自身が参加、参画することが大切であるとの意見を受け、奈良市では「子どもの声を聴く」ということをキーワードとしまして、昨年度から子どもの声を聴くための4つの取り組みを行ってきました。

一つ目の取組としまして、まず、奈良市全域から幅広く、子どもの声と子どもをとりまく大人の声を聴くために、小学5年生、中学2年生、17歳の方、そして大人を対象としましたアンケート調査を行いました。これによりまして、学校、家庭や地域社会における子どもたちの思いや課題など、そして大人の子どもたちへの関わりや大人から見た子ども観などの全体像の把握を行いました。

次に二つ目の取組としまして、アンケート調査では把握しきれない、普段声を発しにくい、あるいは発してもその声が届きにくい、そうした子どもたちの声をひろいあげるために、児童養護施設と母子生活支援施設に子ども条例検討委員の皆さんと私どもが出向きまして、子どもたちから直接インタビュー調査を行いました。また、そうした子どもたちを

とりまく大人たちの声を聴くために、児童相談所と児童家庭支援センターの職員からもお話しを聞きました。さらに非行や不登校・引きこもりの子どもさんを抱えておられる保護者の声も聴くために、それぞれの保護者の会からもインタビュー調査を行いました。

そして三つ目の取組としまして、アンケート調査とインタビュー調査によりまして、子どもの現状や実態などを把握する事ができましたので、次に子どもに関わりのあるテーマについて、子どもたち自身に話し合ってもらい、そして提案をしてもらうために、昨年度に引き続き、今年の8月に未来をひらく子どもワークショップを開催しました。

最後に四つ目の取組としまして、これらの三つの取組みから聴こえてきた子どもたちの声をふまえて、子ども条例について市民の皆さんと共に考えるために、今年の5月に未来をひらく子どもシンポジウムを開催しました。そして、その中で、子どもワークショップ参加者と仲川奈良市長、子ども条例検討委員の皆さんにより意見交換を行いました。

こうした四つの取り組みから聴こえてきた、子どもの声や、子どもをとりまく大人の声を大切にし、そしてその声を反映させながら、奈良市子ども条例検討委員会におきまして平成27年度の施行を目標に子ども条例の検討を進めています。

そうした中で、「子どもの参加」という観点から、子どもが特に主体的に関わりました、子どもワークショップと、子どもシンポジウムにつきましても、この後、参加してくれました子どもたちから報告をしてもらいますが、私の方からは、その概要を簡単にご紹介させていただきます。

まず、子どもワークショップについてですが、平成24年度につきましても、夏休みの期間を中心に5回のワークショップを開催し、公募等によりまして、小学5年生から高校1年生までの34名の子どもたちと、その子どもたちをサポートするために12名の大学生等が参加をしてくれました。子どもたちは7つの班に分かれて、活発に話し合ってもらい、最終回には班ごとにその成果を「私たちの未来をひらく提案」として取りまとめてもらいました。そして、その提案を、市長、副市長、教育長が出席のもと成果発表会という形で発表を行いました。

今年度につきましても、8月に5回のワークショップを開催し、小学5年生から中学2年生までの16名の子どもたちと、10名の大学生等がサポーターとして参加をしてくれました。内容につきましても、昨年度からステップアップをしまして、子どもたち自身にも条例を考えてもらおうという趣旨で、3つの班に分かれて、それぞれの班ごとに話し合ってもらい、その結果を「私たちがつくる子ども条例10箇条」として取りまとめてもらいました。

そして、その10箇条を子ども条例検討委員会で発表し、そのあと条例検討委員の皆さんとその内容について意見交換を行ってもらいました。

次に、子ども条例について市民と共に考えるために開催しました、未来をひらく子どもシンポジウムですが、今年の5月に開催し約160名の市民らが参加をされました。そして、このシンポジウムの中で、子どもワークショップ参加者と仲川奈良市長と条例検討委員の皆さんによる意見交換を行いました。そのテーマは「私が奈良市長だったらこんな奈良市にしたい」ということで、子どもたちがそれぞれ、もしも私が奈良市長だったらとい

うことで、大人ではなかなか気づかないような、子どもならではの視点にたった様々な提案をしてくれました。

それでは、ワークショップとシンポジウムに参加してくれました中学生から、それぞれワークショップとシンポジウムの内容について報告をしてもらいます。

## 2 平成24年度未来をひらく子どもワークショップの内容について

奈良市立飛鳥中学校2年 稲田 悠希

平成24年度未来をひらく子どもワークショップについて報告します。よろしくお願いします。

始めに平成24年度未来をひらく子どもワークショップで出された意見です。

「道路・通学路の安全について」

「先生・学校に対して」

「公園などの遊び場について」

「奈良市への提案」

「自然について」

です。

まず、「道路・通学路の安全について」の意見です。

通学時間帯は自転車と歩行者の通る道は分けて欲しい。これは、通学の時に自転車と歩行者が一緒の道を走っていて危ないからです。次は、点滅信号を押しボタン信号にして欲しいです。これは点滅信号の場所は事故が起きやすく危ない。そこで、押しボタン信号にして安全に渡れるようにしてほしいからということでした。そして、カーブミラーを設置してほしい。これは無駄な所にカーブミラーがあって、危ない曲がり角とかにないので、そういうところにつけて欲しいということでした。

次は、「先生・学校に対して」です。中でも多かったものは、クーラーを設置してほしい。理由は、教室は、夏は暑くて冬は寒い。勉強に集中できないから、快適な環境を作って勉強に集中できるようにしてほしいということでした。次は、机を大きくしてほしい。です。今の机は教科書が大きくなって全部のりきらないから、机を大きくして欲しいということ。無理なら教科書を小さくしてほしい。次は制服についての意見ですが、制服がいい、いやだ。という両方の意見がありました。それなら最初から着崩さなくてもいい機能的な制服を作るか、校則にしたらいいということでした。次はいじめをなくすために先生は生徒に厳しくしてほしい。これは、昔は先生が生徒をたたいたりして注意をしたけれど、今はそんなことをしたら大問題になりかねないので、今の先生は厳しくないから、生徒が甘やかされるので、親に怖がらずに頑張してほしいと思いました。最後は送迎バスを作ってほしい。なかなか斬新な意見ですが、理由は雨の日は自転車通学をしている人も歩いて通学しないといけないので、時間がかかってしまう。なので、雨の日だけでもバスを出してほしいということでした。

次は、「公園などの遊び場について」です。

公園の遊具を誰でも遊べるようなものにして欲しい。これは、遊具が小さいので、小学校高学年くらいになると使いづらいので、誰でも使えるアスレチックを作ると公園もにぎやかになるんじゃないかということでした。そして、海がないのでプールを増やしてほしい。この意見は海がない奈良なのにプールが少ないので、解決策として、夏はプール、冬はスケートリンクになるような施設を作るか学校のプールを開放してほしいという意見

でした。次は、色んなスポーツができる競技場がほしい。これは運動部の人たちが遠征に行くとお金がかかるので、近くに競技場が欲しいという意見でした。そして、最後は近場で簡単に遊べる所がほしい。奈良には遊園地が少ないので建ててほしい。や、平城宮跡を整備して民族村みたいなものを建ててくれたら観光客も増えるし、子どもたちも楽しめるからこの意見が出ました。

そして、奈良市への提案です。まず、燈花会などのイベントをご当地キャラクターや広告・CM でアピール。奈良には燈花会というお祭りがあるのですが、あまり知られていないかもしれないので、たくさんの人に知ってもらうためにこの意見が出ました。



そして、毎年行う催しに新しい取り組みを加える。これは地元の人が毎年楽しめるように、観光客も楽しめるようにという案でした。そして、商店街をもっと遅くまで営業する。奈良市は商店街が閉まるのが早く大仏商法と言われているので、夜遅くまでやると人も集まってまちもにぎわうからです。最後は水道の蛇口から大和茶を出して欲しい。これも斬新な意見ですが、これも静岡県では水道からお茶が出てきて素敵だから奈良でも大和茶を出してほしい。

最後に「自然について」です。

まず、ソーラー発電を増やす。クリーンエネルギーを使う。パネルは遊園地を建ててその利益でビルの屋上に付けたら効率的に蓄電することができるのではないかとということでした。次は、ゴミ箱を設置してほしい。奈良はゴミ箱が少なく、ゴミを少しでも少なくするために設置してほしいという意見でした。そして、最後は愛護活動をする。人間のことばかりでなく、動物のことも考えるために活動していきたいということでした。

「成果発表会について」です。

ワークショップで編成した7班を5班に編成し、1班あたり10分程度の時間で5回にわたるワークショップの成果を奈良市長、副市長、教育長ら出席のもと発表しました。

これで、発表を終わります。

### 3 平成25年度未来をひらく子どもワークショップの内容について

奈良市立富雄中学校2年 藤井 朋美

平成25年度の未来をひらく子どもワークショップについて報告します。よろしくお願いいたします。

今年は小中学生16名を3班に分けて話し合いを進めました。

まず、中学生5名の班では子ども条例8箇条を作りました。出た意見は主に学校生活に関わることで、部活や先生の対応に関するものが多かったです。

次に小学生5名の班では10箇条としてまとめました。主な意見は学校への意見箱の設置や子どもへの対応の改善についてです。



最後に中学生6名の班では少し多い14箇条にまとめました。この班では公園、道路、駐輪場などの公共施設に対する要望が出されました。

以上、紹介した3つの班の条例のうち、いくつか補足説明をさせていただきます。

まず、学校関係の意見として多く出た目安箱や意見箱についてですが、これは引っ込み思案で自分の意見が言えない子のために作るべきだという意見です。次にお金の使い方についてですが、学校の設備や部活におけるお金の使い方に子どもの意見を反映させてほしいということです。タブレット授業の導入についてですが、これはタブレットを教科書の代わりとして使うことにより、学校の行き帰りの荷物の重さから解放されたいという希望からです。

次に公共施設関係で、公園や遊び場についてです。ボール遊びのできる公園や児童館が奈良にはあまりないので作って欲しいという意見です。居場所が少ないことについてですが、これは私たち中学生が気軽に集まれる場所がないので作ってほしいという意見です。道路についてですが、これは車道、歩道、自転車道の整備や街灯の増設の希望です。そして、最後に大人は子どもの意見を尊重し、子どもと同じ目線で考えてほしいという意見がたくさん出ました。

私たちが作った子ども条例をもとに奈良市子ども条例検討委員との意見交換会が開催

されました。

この意見交換会では検討委員の方が子ども条例に込められた私たちの思いを丁寧に聞いてくださりとても嬉しかったです。

このワークショップに参加した子どもたちの感想ですが、子ども条例が作られてほしい、色々なことができて楽しかった、たくさんの意見が聞けて楽しかった、いろいろ発言できてよかった、充実していたなど、参加した子ども全員が肯定的な感想だったことをご報告しまして私の発表を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

## 4 未来をひらく子どもシンポジウムの内容について

奈良市立飛鳥中学校2年 田尾 紗衣

未来をひらく子どもシンポジウムについて報告をさせていただきます。よろしくお願いします。

まず、私たちの意見として、「きれいな奈良に！」というのが出ました。これはゴミ箱をたくさん設置しようという意見で、捨てたい時にゴミ箱がないと、ポイ捨てが出てきてしまうじゃないですか。それを拾う活動をするより、ゴミ箱に自分で捨ててもらおうようにすれば効率が良いのではないかということで、ゴミ箱をたくさん設置しようという意見が出ました。

次に、「お金持ちにしよう」ということで、税金を上げて公共施設などを整備してほしいという意見が出ました。具体的な例として、競馬場を作ろうというとても斬新な意見が出ました。競馬場までとはいかなくても、新しい発想や、攻めの姿勢でもっと奈良を活性化して楽しいまちにしていきたいという意見です。

次に、「誰もが楽しめるイベントを開催」ということで、地域の人とつながりをつくったり、観光客にも参加してもらったりして、楽しいイベントにみんなが参加できるようにしたいです。そのために、たくさん参加してもらうためには交通の便を良くして来やすくしていけたらという意見がでました。

次に、「大人を変えよう」ということで、親が変わらないのに子は変わりません。なので、親への支援を手厚くし、親子で楽しめる場所を作って、親子の絆を深めていきたいという意見です。



次に、「子どもと大人、立場逆転！」という意見では、私たち子どもでまちを作ってみると大人から不満が出てくると思います。でも、私たちが、今、大人だけが作っている社会にいつも私たちが思っていることなので、それを理解してほしいということでこのような意見が出ました。

次に、「若者を都会から呼び戻そう！」という意見では、若者が遊べる場所、楽しめる場所、例えば遊園地などがとても少なくなっていました。そこで、都会に行ってしまった奈良の人を呼び戻すために、少子高齢化が進む今こそ、奈良の良さ、自然や人工建造

物が融合していてとてもきれいだとか、観光客がいっぱいいて、国際交流がしやすいとか、そういう奈良の良いところをアピールして、奈良で住んでいてもらいたいなという意見が出ました。

次に先ほどイベントのところでも出ましたが「交通の便を良くしてほしい」という意見がとてもたくさん出ました。自然を大切にしていくことは大切ですが、整備されていない道路があると、いざ事故が起こった時に、その自然を大切にしていくために道路がなかったら、逆に自然が壊れていくのではないかということで、自然と人工建造物の共存を目指して奈良らしいまちを作っていこうという意見が出ました。

その他の意見交換を少し紹介したいと思います。「都会と奈良」ということで、奈良では、京都や大阪で働いている人が多いので、ベッドタウンとして発展させて、生活用品をすぐ近くで買い揃えられるような、私生活を楽に送れる環境を作って、奈良に住んでもらえたらいいなという意見です。

次に「大人と子どもの感覚の違い」というのは、大人はたいしたことないと思っけても、子どもにとってはとても重要なことがあります。例えば、大人はお菓子なんかなくてもワークショップに参加してくれるだろうと思うでしょう。でも、子どもは、お菓子で釣られる子もいます。お菓子の糖分って必要なので。子どもにとったら重要なことを子ども目線で考えて欲しいということで、ヨーロッパで行われている「子どもにやさしいまち」というのがあるんですけど、子どもと大人の立場逆転を実現させてみるのも面白いのではないかという意見が出ました。

次に「希望と予算」というところでは、現在、学校などにあてられている予算は大人が全部決めています。例えば、大人が天井の穴を埋めることに予算の優先順位を高くしたときに、子どもは「でも、クーラーの方が良くない？」ってなるときがあるんですね。そういうところで大人と子どもの優先順位は違うので子どもの優先順位も聞いて、両方の優先順位が高かったところから、優先的にお金を使っていったらいいんじゃないかという意見が出ました。

最後に、シンポジウムに参加しての感想で、子どものシンポジウムだけど、大人が多くて、子どもがあまりいなかったのが残念。こういう機会がもっとあればいいな。奈良市だけじゃなく、奈良県に広がったらいいな。実際に子どもをおとなの話し合いの場に参加させてくれたらいいな。という意見が出ました。これで、私の発表を終わります。

## 5 「子ども参加」について感想

稲田くん 子どもワークショップが開かれるのは大切だと思うし、自分たちの住んでいるまちの今や未来のことを考えるのはとても良かった。自分と同じ意見、違う意見が出てくるので、みんないろいろ考えているんだと思いました。僕がワークショップに最初に参加したときは、不安だったけど、多分、みんなそうだと思います。でも、だんだんと意見が言えるようになっていきました。子どもが一生懸命考えた奈良市への意見なので未来に実現したら、みんなとても喜ぶと思います。その意見をたくさん出すために子どもたちの参加は大切で、日頃思っていることを言える場所なので、子ども参加は未来を築くために必要なことだと思います。

藤井さん 私は、平成24年度のワークショップに参加してみて、とても楽しかったし、自分自身が成長できる良い機会だと感じたので、今年のワークショップに、学校の友達も誘いました。今年のワークショップにみんな興味を持ってくれましたが、ワークショップの会場である市役所への移動手段がネックとなり、参加してもらえませんでした。私は幸い親に車で送迎してもらえましたが、友達は親が働いていて送迎してもらえなかったり、電車代がかかるからダメと言われていたりしたそうです。うちの車で送迎するよと言っても、相手の親が遠慮したりと結局、誰ひとり誘うことができませんでした。今年のワークショップからは参加の都度、交通費代わりに図書カード500円分を頂けることになりました。でも、実際の交通費はもっとかかる人もいます。子ども自身が参加したいと思っても、様々な理由で参加することができない子どもがいることを大人の方には知っていただきたいです。そして、大人は子どもが参加しやすいように条件を整えてほしいと思いました。以上です。

田尾さん 私は、平成24年度ワークショップに行く時は先生が誘ってきて、「いや、あんまり…」と言ってたんですけど、結局、行くことになって、行ってみたら楽しくて、実はこういうところって楽しくて、好きになれる場所なんだなって思いました。で、そこで疑問に思ったこととか、知って思ったのが大人だけで社会を作っているということで、子どもは勉強が仕事じゃないし、やりたいことあるし、考えてることあるし、実現できる力を持っています。なのに、大人たちは「いや、こうしときなさい」、「大人になるとき、社会人になるとき困るよ」みたいに言います。けど、今、行動することが、大人になって社会に出ていくときにとっても大事になると思うので、これを大人に訴えていって、もっとこういう子どもが参加できていく社会を作っていけたらいいなと思います。子ども条例っていうのがあるんですけど、基調講演をしていただいた喜多さんの話の中で、川崎市の子ども条例が出てきたんですけど、子ども条例なのにとっても

言葉が難しく、喜多さんの説明がないと、要するにどういうことなの、私たちにはどういうことをしてくれるのっていうことがわからなかったの、子ども条例を作るときは、ちゃんと子どもはこういうことができますよっていうことを、はっきりさせてほしいなと思いました。

## 6 質疑応答

質問者 A 「実際に子どもを大人の話し合いの場に参加させてほしい」とあるんですけど、私は仕事で大人のワークショップをやっています。大人を集めて、今度、どういうまちにしていこうかっていうワークショップをしょっちゅう開いて、大人の意見を聞いているんですけど、その場に子どもがいないんですね。で、よく子どもがいた方がいいんじゃないかと思うんですけど、今までなかなかやってこなかった。というのは、大人の余計な気遣いなのかもしれないけど、ここにも発言しづらいんじゃないかとか、委縮しちゃうんじゃないかとか勝手に気をまわして、今までやってこなかったというのがあると思うんですよ、反省としてなんですけど。子どもだってきっといろいろ言えるだろうと思っているんです。けど、実際に来たいと思うかとか、あるいは、行くとしても大人が10人いて子どもが2人とかだととてもやりづらいと思うんです。例えば、大人と子どもが同じくらいとか。あるいは、こういう参加の仕方があったら意見が言いやすいとかいうのがあれば教えて欲しい。

田尾さん 先ほど大人だけでやっていると言いましたが、変な気をまわしているということも子どもからしたら、ズバッという余計なお世話で、ここでしゃべるのもすごく緊張しますけど、ちゃんと意見を言えるし、考えていることもあるので。ただ、やっぱり大人と子どもの比率が、大人が多いと言いくくなると思うのでアイスブレイキングをしっかりと、秘密を共有したりして、信頼関係を作るだとか、子どもを隣同士にするだけじゃなくて、バラバラにすることで意見を出しやすくするという方法もあると思うので、それは子どもさんにもよるんですけど、そういうのに参加したいかっていうのを子どもたちに聞いてみたらいいと思います。

岡田係長 それと補足ですけども、例えば奈良市でも今年のワークショップの成果を子ども条例検討委員会の場で発表し、また、条例検討委員の皆さんと意見交換を行ってもらいましたが、その時に座席の配置を、対面形式では緊張して話づらいといったことがありますので、机のない形で、椅子だけで輪になって座ってもらい、そして、子どもと大人がそれぞれ交互に座ってもらうような形式をとりました。そういった形の方が話やすいということもあると思いますので、そうしたことも配慮したほうが良いのではないかと思います。

質問者 B 追加でいいですか。子どもだけでワークショップをやって、そのあと子どもたちの意見を聞くという段階だと思うんですが、なんとなくですが、結局、聞いてあげる的なイメージがあるんですけども、条例ができたあとの展開としてなんですが、例えば、市民を集めて、いろんなことを考えていくというところに子どもも一緒に参加していくということを検討していますか。

岡田係長 条例ができた後ということになりますと、条例がどういう内容になるのかにもよるんですけども、例えば、子どもの参加ということで、子ども会議的なものを位置づけるのかどうか、それによっても子ども参加のあり方は異なってきますので、今後、条例の中身が検討委員会の議論の中で、どのように形づくられていくかによって、どういう展開になるかは異なってきますが、できるだけそういった参加をしてもらえるような仕組みづくりは考えていく、ということで検討委員会からご意見を頂いております。

質問者 B 今のお話を伺って、仲川げん市長はそういった考えでシンポジウムを終えられたのかなと思って聞いたんですが。代弁されたということですか？

岡田係長 代弁ということではありませんが、ワークショップやシンポジウムなどの子どもの声を聴くための取り組みは、市長の方針に基づいて行っています。

質問者 B それと子どもさん3人いらっしゃるんですけど、もし市長だったらということで、一言ありましたらよろしくお願いします。

稲田くん 自然を保ちつつ道路を整備するとか、お店のこととかをもっとちゃんとしていきたい。

藤井さん さっきも出ていましたが、奈良市ってめっちゃ赤字なんですよ。だから、赤字なのに次のことをやりたいって言っても、お金がないから無理となってしまうんですね。だから、まず、お金持ちになったら、新しく始めることもスムーズに始めることができるのではないかと考えるので、私はお金持ちにしたいと思います。

田尾さん 強いていうなら、私、大人と話すのがすごい好きで、というか、同年代と話すのが少し苦手で、大人と話す方が話しやすいんですよ。だから、今こういう場ですけど、もっと砕けた世間話のようなことでも話し合える場があればいいなあと思いました。



質問者 C 子どもたちの中からはいい意見がたくさん出て、それを実際、実行していくところで、大人の方たちにも理解してもらわなくてはならないときにアイデアというか、どうしていくのか予定があるとかそういうものがありますか。

岡田係長 奈良市につきましても、条例が検討段階ということですので条例を策定している先進市の人たちに対して、私たちがアイデアを申し上げるのはおこがましいですけども、ただ、子どもたちの意見というのは、例えば、昨年度のワークショップで出た意見というのは、奈良市の総合計画というのがございまして、この総合計画の中で施策体系というのがございます。子どもたちから出た意見というのを、この奈良市の総合計画の施策体系に当てはめまして、これが奈良市の具体的な施策として、実現する場合、どの施策と関連してくるのかということたちで取りまとめをいたしました。ただ、それをこれからどういう形で実現していくのかというのはまだまだ検討段階ですし、条例についてもまだ、これから中身について、子どもたちの声を聴いた上で、どういう中身にしていくのかという段階でございますので、その辺はまだ詳しくこうするといった予定を申し上げられる段階ではございません。

喜多コーディネーター 私はあの長野県の方の条例作りで子ども部会ってやり方で半年ぐらいの会議で意見を出してもらったというやり方もあるし、奈良市の場合はワークショップ、あの継続的に同じ子どもたちが集まる形なのか、その時の一過性というか、その時々ワークショップをやって子どもたちの声を集めるというやり方なのか、ちょっと違いが分かりにくくその辺をもうちょっと説明してもらいたい。

岡田係長 奈良市のワークショップにつきましては、昨年度と今年度開催したわけですが、それぞれ基本的には独立したかたちで実施をしております。昨年度につきましては34名の子どもたちが参加をしてくれまして、今年度につきましては、また新たに参加者を募集しました。もちろん昨年度に参加してくれました34名の子どもたちに対しても参加の案内を送って、参加を呼び掛けましたが、学年が変わって受験があったりとか、状況が変わって、なかなか継続的に参加をするのが難しいということで、結果的には、昨年度と今年度を継続して参加してくれたのは34名中2名です。特に中学生につきましては、ほとんどが授業が終わった後クラブ活動をしています。それが平日だけではなく土日もありまして。そしてまた塾があります。そうなってくると、大人以上に子どもたちは忙しいものですから、今年度も8月の夏休み期間に5回開催しましたが、なかなか集まってもらうのは難しいです。

質問者 D 実際にどんな広報をされていますか。学校で全員にチラシをだして参加を募るんですか。それとも校長会で依頼するとかいろいろな手を尽くしてるんですか。

岡田係長 あらゆる手を尽くしております。市の全世帯に配布する広報誌やホームページに掲載するのと併せて、校園長会にお願いして学校で周知を図ってもらう。そして、それでもなかなか集まりにくいという現実がありまして、学校に個別にお願いもしながら、なんとか集まってもらっている。そういった状況です。

質問者 D 平成24年度は34名ですね。平成25年度で人数が半分になりましたが、それについてはどういう分析をされていますか。

岡田係長 それにつきましては、昨年は一つの学校の運動部員11名が、夏休み期間ということで午前中に練習が終わったあと、そのままワークショップに参加してくれたということがございます。今年はそれを継続してもらえなかったということがありまして、大幅に人数が減ってしまったという状況です。ただ、16名という参加人数ではございましたが、全ての子ども達が可能な限り出席してくれましたので、毎回、大体11～15名が参加してくれました。

喜多 コーディネーター さっき先生に誘われてワークショップにとおっしゃいましたが、みなさん、どうやってワークショップに参加しようと思われましたか。あらゆる広報のどれにひっかかりましたか。

稲田くん 僕は友達に行ってみーひん？って誘われて。

藤井さん 私はしみんだよりに掲載されているのを母が見つけてくれて、行ってみたらと言われました。

田尾さん 私は、三者懇談の時に渡されたのと同時に校長先生に呼び出されて。

質問者 D さっきの発表で奈良は都会でないと言われたのが、えっと思ったんだけど、どうしてなのかな。

藤井さん 鹿がそこらじゅうにいる。あと、東大寺より高い建物を建てちゃダメっていうのがあって、それで下に掘ろうと思っても、遺跡が出てきてダメで、上も下もダメだから、低い建物ばかりになってしまって都会らしくない。

質問者 E それぞれ一人ずつお答えいただきたいんですが、それぞれのご家庭で、ご自分のこれから、例えば塾に行くとか、どこの学校に行くとか決めるときに自分の意思を親が尊重してくれる、そういった環境の中ですごしておられるかをお聞きしたい。

稲田くん 僕は塾とかは自分で行かせてほしいと言って、頑張って、怒られる時もあるけれども、とりあえず自分で頑張ってみて、無理やったら親に助けてもらいます。

藤井さん 私の家でも、ちゃんと自分の意見を尊重してもらっています。例えば、さっき言っていたように塾に行きたいとか、「塾に行け」じゃなくて、「行ってきたらどうや」って言われて、「あ、じゃあ、行きたいなあ」ってなって、ちゃんと自分の意思で行くって言って、いいよって言われているので、ちゃんと尊重されていると思います。



田尾さん　私自身、負けん気でわがままで強情で、すぐ泣いて同情を買おうとするので、そこまで親にやられているわけじゃないですね。塾もまだ行きたくないって言って行ってないですし。まあ、ただ3年生になったら絶対行くっていうのは強要されています。

# 資料編

## 1 奈良市報告用パワーポイント資料

(1) 奈良市の子ども条例検討における子ども参加の取り組みについて  
スライド 1

奈良市における子ども条例検討  
子どもワークショップの活動

平成25年10月20日  
奈良市子ども未来部子ども政策課

スライド 2

奈良市子ども条例の検討

児童虐待、いじめや不登校、ひきこもりなど様々な子どもを取り巻く社会的環境の悪化をふまえ、奈良市では子どもにやさしいまちづくりを目指して、子ども条例の検討を進めている。

奈良市子ども条例検討委員会で検討

キーワード **子どもたちの声を聴く**

スライド 3

子どもたちの声を聴く4つの取り組み

取組 1	取組 2	取組 3
<b>アンケート調査</b> <ul style="list-style-type: none"><li>小学5年生 485件</li><li>中学2年生 558件</li><li>17歳の市民 1,000件</li><li>20歳以上の市民 1,500件</li></ul>	<b>インタビュー調査</b> <ul style="list-style-type: none"><li>児童養護施設(子ども)</li><li>母子生活支援施設(子ども)</li><li>児童相談所(職員)</li><li>児童家庭支援センター(職員)</li><li>非行と向き合う親たちの会(保護者)</li><li>不登校、引きこもりを考える親たちの会(保護者)</li></ul>	<b>子どもワークショップ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>平成24年度(参加者34名) 子どもたちの意見や思いを「私たちの未来をひらく提案」としてまとめる</li><li>平成25年度(参加者16名) 子どもたちの意見や思いを「私たちがつくる子ども条例10箇条」としてまとめる</li></ul>

**取組 4**  
**シンポジウム**  
子どもワークショップ参加者と仲川市長、子ども条例検討委員による意見交換  
テーマ「私が奈良市長だったらこんな奈良市にしたい」

奈良市子ども条例検討委員会(委員6人)  
アンケート調査、インタビュー調査、子どもワークショップ、シンポジウムで寄せられた子どもたちの声をふまえて条例を検討

スライド 4

 **未来をひらく子どもワークショップ**

平成24年度

- ◎ 夏休みの期間を中心に5回のワークショップを開催
- ◎ 小学5年生から高校1年生までの34名の子どもたちが参加
- ◎ 12名の大学生等がサポーターとして子どもたちをサポート
- ◎ 子どもたちの意見を「私たちの未来をひらく提案」としてとりまとめた
- ◎ 市長、副市長、教育長等が出席のもと成果発表会を行った



4

スライド 5

平成25年度

- ◎ 8月に5回のワークショップを開催
- ◎ 小学5年生から中学2年生までの16名の子どもたちが参加
- ◎ 10名の大学生等がサポーターとして子どもたちをサポート
- ◎ 子どもたちの意見を「私たちがつくる子ども条例10箇条」としてとりまとめた
- ◎ 子ども条例検討委員会で発表し、検討委員と意見交換を行った



5

スライド 6

 **未来をひらく子どもシンポジウム**

- ◎ 5月に開催 156名の参加者
- ◎ 子どもワークショップ参加者7名と仲川市長、子ども条例検討委員による意見交換  
テーマ「私が奈良市長だったらこんな奈良市にしたい」
- ◎ 1時間にわたる意見交換は大いに盛り上がった



6

(2) 平成24年度未来をひらく子どもワークショップの内容について

スライド 7



平成24年度  
未来をひらく子どもワークショップ  
の取り組み

---

奈良市立飛鳥中学校 2年  
稲田 悠希

スライド 8



ワークショップで出された意見

---

道路・通学路の安全について  
先生・学校に対して  
公園などの遊び場について  
奈良市への提案  
自然について

スライド 9



道路・通学路の安全について

---

通学時間帯は自転車と歩行者の通る道を  
分けて欲しい  
点滅信号を押しボタン信号にして欲しい  
カーブミラーを設置してほしい

スライド  
10



### 先生・学校に対して

- クーラーを設置して欲しい
- 机を大きくして欲しい
- 制服について
- いじめをなくすために先生は生徒に厳しくしてほしい
- 送迎バスを作って欲しい

スライド 11



### 公園などの遊び場について

- 公園の遊具を誰でも遊べるようなものにして欲しい
- 海がないのでプールを増やして欲しい
- 色んなスポーツができる競技場が欲しい
- 近場で簡単に遊べる所が欲しい

スライド  
12



### 奈良市への提案

- 燈花会などのイベントをご当地キャラクターや広告・CMでアピール
- 毎年行う催しに新しい取り組みを加える
- 商店街をもっと遅くまで営業する
- 水道から大和茶を出して欲しい

スライド  
13



## 自然について

---

ソーラー発電を増やす  
ゴミ箱を設置して欲しい  
愛護活動をする

スライド  
14



## 成果発表会について

---

ワークショップで編成した7班を5班に編成し  
1班あたり10分程度の時間で5回にわたる  
ワークショップの成果を奈良市長、副市長、  
教育長ら出席のもと発表しました

(3) 平成25年度未来をひらく子どもワークショップの内容について

スライド

15

**平成25年度**

**未来をひらく子どもワークショップ**

**奈良市立富雄中学校 2年 藤井朋美**

スライド

16

～ワークショップの様子～



スライド

17

**★私たちがつくる 子ども条例 8箇条★**  
**(2班・・・中学生5名)**

1. アンケートに名前を書くか自分で決めさせてほしい
2. 言いにくいことも目安箱などを使って言いやすいような環境をつくる  
(名前は自由に書く)
3. 部活間での取り決めに生徒も参加させてほしい
4. 子ども部活のお金のことについて意見させてほしい
5. 学校(移動教室)などについて生徒も話し合いにまぜてほしい
6. 先生は私たちの提案の実現のために、何をしたかきちんと教えてほしい
7. 2人以上が納得した意見を先生がまともに受取ってほしい
8. 大人も子ども一人ひとりを平等な目で見してほしい

スライド

18

### ★私たちがつくる 子ども条例 10箇条★ (1班・小学生5名)

1. 学校に先生の意見を聞けるような意見箱をおく
2. 学校に生徒の意見箱をクラスごとに置く
3. 学校は学校を良くするための自由なお金を持ち、環境を良くする
4. 大人は上から目線でなく、子ども目線で考えてほしい
5. 大人は子どもの考えをもう少しちゃんと聞く
6. 大人は子どもに注意するだけでなく、大人もルールを守ってほしい
7. 大人は子どもが意見を言いやすい場をできるだけつくる
8. 解決できないことは、しっかりその理由を言ってほしい
9. 難しい言葉ではなくわかりやすい言葉を使ってほしい
10. 子どもの遊び場を駅前(よく行く場所)に置いてほしい

スライド

19

### ★私たちがつくる 子ども条例 14箇条★ (3班・中学生6名)

1. 大人は歩きタバコやタバコのポイ捨てをしてはいけない。また分煙もすること!
2. 休み時間を場合によって増やしてほしい(移動教室、体育)
3. タブレット授業を導入
4. 図書館、駅、公共施設に無料の駐輪場を作る
5. 学校の環境を整えるべき(教室にクーラー設置義務と運動場拡大)
6. いろんな遊具がある公園を作る
7. 道路の質を改善すべき(車道、自転車道、歩道を分ける、街灯を増設)
8. 本数が少ない路線バスを増やす
9. 自分勝手な話し合いにしない
10. 大人も子どもも平等に扱ってほしい
11. 最後まで話を聞いて頭ごなしに否定しない
12. 質問しすぎず、しなすぎず、適当な振り方をする
13. 中学生などが気軽に集まれる場所を地域に一つ作るべき
14. みんなの意見が言える場(反映できる)または目安箱を設置する

スライド

20

### 「私たちがつくる 子ども条例10箇条」 ★補足説明①★

#### —学校関係—

- z 目安箱(意見箱)の設置について
- z お金の使用方針について
- z タブレット授業の導入について

スライド  
21

## 「私たちがつくる子ども条例10箇条」 ★補足説明②★

—公共施設関係—

z公園や遊び場について

z居場所が少ないことについて

z道路について

—その他—

z大人も子どもも 対等な立場で！

スライド  
22

## 奈良市 子ども条例 検討委員との 意見交換会(8/23開催)

第11回 奈良市子ども条例 検討委員会にて

【参加者】 子ども 10名

検討委員 5名

奈良市職員

サポーター 5名

スライド  
23

## ～意見交換会の様子～



★ワークショップに参加してみて・・・★  
(子どもたちの感想)

- z 子ども条例が作られてほしい
- z 色々なことができて楽しかった
- z たくさんの意見が聞けて楽しかった
- z いろいろ発言できてよかった
- z 充実していた

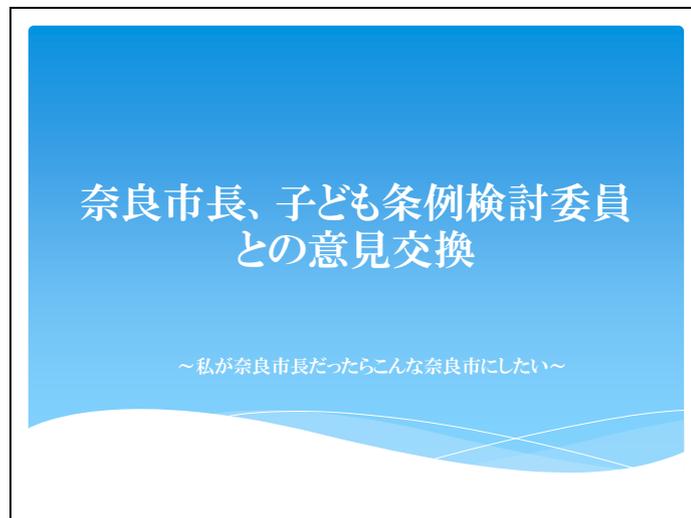
→参加した子ども全員が肯定的

(4) 未来をひらく子どもシンポジウムの内容について

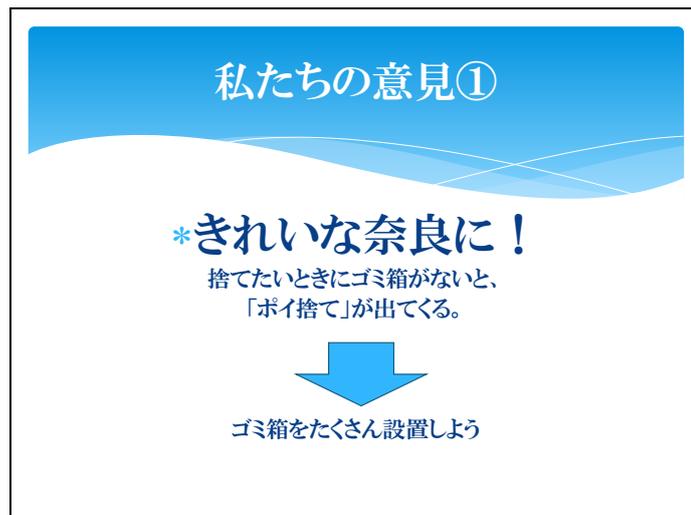
スライド  
25



スライド  
26



スライド  
27



スライド  
28

**私たちの意見②**

**\*お金持ちに！**  
税収を上げて公共施設などを整備してほしい！



競馬場を作って他府県から人を呼び込もう！  
新しい発想、攻めの姿勢で  
奈良を活性化させよう！

スライド  
29

**私たちの意見③**

**\*誰もが楽しめるイベントを開催**  
地域の人とのつながりを作ろう！  
観光客にも参加してもらおう！



たくさん参加してもらうために、  
交通の便をよくしよう！

スライド  
30

**私たちの意見④**

**\*大人を変えよう！**  
親が変わらないのに、  
子どもが変わるわけない！！



親への支援も手厚くしよう  
親子で楽しめる場所を作ろう

スライド  
31

私たちの意見⑤

**\*子どもと大人、立場逆転！**  
私たちが街を作ってみよう



大人から不満が出てくる  
でもそれは、私たちが普段思っていること

スライド  
32

私たちの意見⑥

**\*若者を都会から呼び戻そう！**  
若者が遊べる場所、楽しめる場所を作って、  
都会に行ってしまった奈良の人を呼び戻そう！



少子高齢化が進む今こそ奈良の良さを  
アピールして奈良で住んでもらおう

スライド  
33

私たちの意見⑦

**\*交通の便をよく！**  
自然を大切にしていくことは大切  
でも整備されていない道路は困る



自然と人工建造物の共存を目指そう

スライド  
34

その他の意見交換

**\*都会と奈良**

→ベッドタウンとして発展させたらどうか  
私生活が楽に送れる環境を作る

スライド  
35

**\*大人と子どもの感覚の違い**

大人はたいしたことないと思っている  
でも、子どもにとったらとても重要！  
→ヨーロッパで行われている子どもにやさしいま  
ちを参考にして、子どもと大人の立場逆転を実現  
させてみよう！

スライド  
36

**\*希望と予算**

現在、学校などにあてられる予算は大人が優先順位を  
考えて使っている  
→大人と子どもの優先順位は違う  
子どもの優先順位も聞いて、お互いの立場から本当に  
必要なものを見出して予算を使ってほしい

## シンポジウムに参加して

- \* 子どものシンポジウムだけど、大人が多くて子どもはあまりいなかったのが残念
- \* こういう機会をもっとあればいい
- \* 奈良市だけでなく、奈良県に広がったらな
- \* 実際に子どもを大人の話し合いの場に参加させてくれたらな

## 2 奈良市報告資料

<b>I テーマ</b>	奈良市における子ども条例検討子どもワークショップの活動
<b>II 自治体名等</b>	奈良県奈良市
<b>III 所属・職・氏名</b>	子ども未来部子ども政策課 企画調整係長 岡田 宇司
<b>IV 連絡先</b>	① TEL 0742-34-4792 ② FAX 0742-34-4798 ③ e-mail kodomoseisaku@city.nara.lg.jp
<b>V 自治体の概要</b>	① 人口 365,276人（平成25年8月1日現在） ② 18歳未満人口 55,489人（平成25年8月1日現在） ③ 面積 276.84km <sup>2</sup> ④ 市の特徴 奈良市は、奈良県の北部に位置する同県の県庁所在地である。市域は東西に広がっており、東部は山間部、中東部は観光都市、西部は住宅地と市内でも雰囲気の違いをみせる。 710年には古代日本の都「平城京」がおかれ、今日まで貴重な文化財が数多く守り伝えられており、平成10年に「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録された。

### VI 報告事項

児童虐待、いじめや不登校、ひきこもりなど様々な子どもを取り巻く社会的環境の悪化をふまえ、奈良市では子どもにやさしいまちづくりを目指して、子ども条例の検討を進めている。

平成23年3月に第1回を開催して以降、これまでに11回の検討委員会を開催してきたが、その中で、条例の検討に当たっては当事者である子どもたちの声を聴くことが大切であるとの考えのもと、これまでに四つの取り組みを行った。

一つ目は、学校、家庭や地域社会における子どもたちの思いや課題などを聴き、そして大人の子どもたちへの関わりや大人から見た子ども像などを、奈良市全域から幅広く聴くために、小学5年生、中学2年生、17歳の市民及び大人を対象としたアンケート調査を行った。

二つ目は、アンケート調査では把握しきれない、普段意見が届きにくい子どもたちの声を聴くために、児童養護施設と母子生活支援施設に子ども条例検討委員と子ども政策課職員が出向いて、子どもたちからインタビュー調査を行った。また、そうした子どもたちをとりまく大人たちの声を聴くために、児童相談所と児童家庭支援センターの職員から、そして非行と向き合う親たちの会と不登校・引きこもりを考える親たちの会の保護者から、それぞれインタビュー調査を行った。

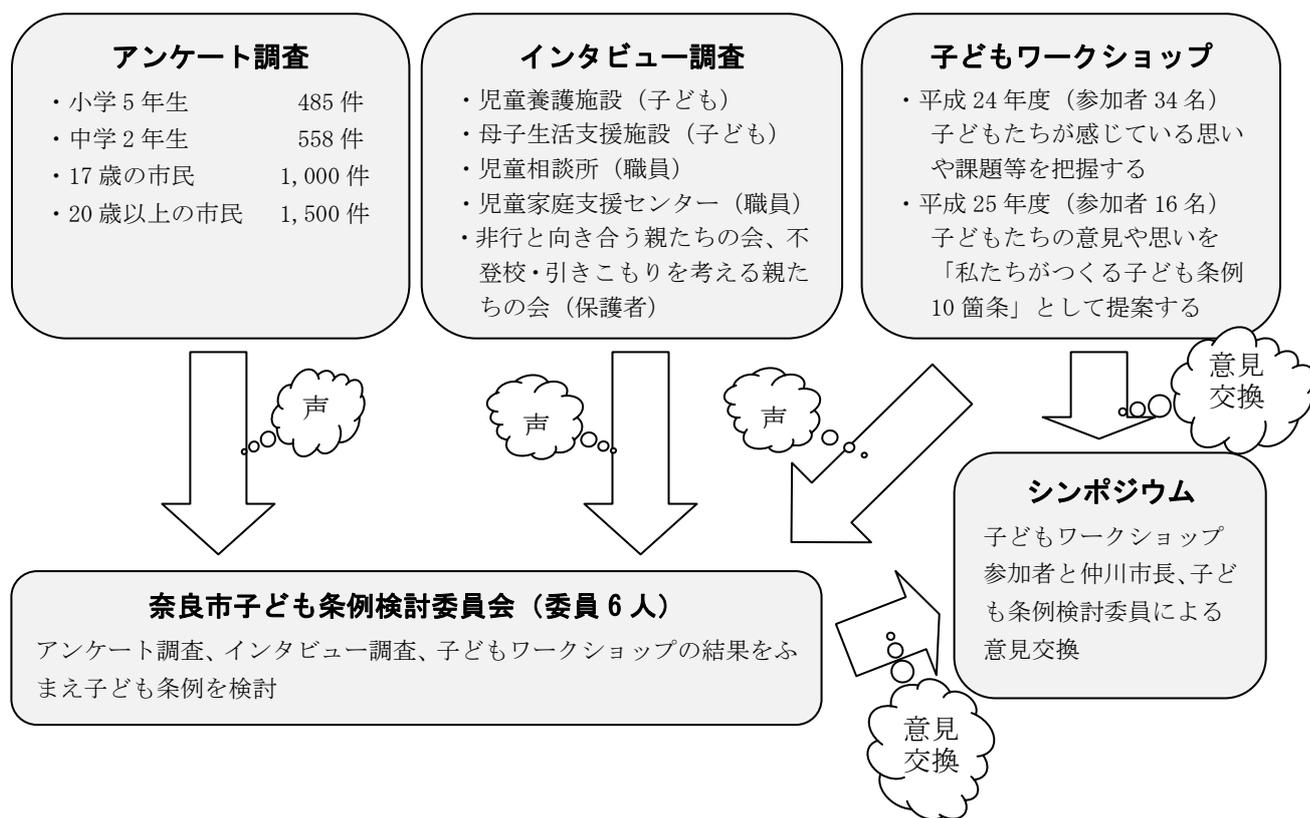
三つ目は、子どもに関わりのあるテーマについて、子どもたち自身に話し合ってもらい、そして提案をしてもらうために、昨年度に引き続き、今年の8月に未来をひらく子どもワークショップを開催した。

四つ目は、これら三つの取り組みから聴こえてきた子どもたちの声をふまえ、子ども条例について市民と共に考えるために、今年の5月に未来をひらく子どもシンポジウムを開催し、その中で、「私が奈良市長だったらこんな奈良市にしたい」というテーマで、子どもワークショップ参加

者と仲川市長、子ども条例検討委員による意見交換を行った。

こうした四つの取り組みから聴こえてきた、子どもの声や、子どもをとりまく大人の声をふまえ、平成27年度の施行を目標に子ども条例の検討を進めている。

そうした中で、「子どもの参加」という観点から、子どもが主体的に関わった、子どもワークショップと、子どもシンポジウムにおける仲川市長等との意見交換について、その概要は以下のとおりである。



## 1 平成24年度 未来をひらく子どもワークショップ

### (1) 要旨

子ども条例の制定に向け、その内容を検討するに当たり、子どもたちが普段から感じている思いや課題やニーズ等を把握するために、夏休み期間を中心に5回のワークショップを開催した。

そして、その成果を取りまとめ市長、副市長、教育長らが出席のもと成果発表会を行った。

### (2) ワークショップ参加者

奈良市内に在住する小学5年生から高校1年生までの34名の子どもたちが参加した。

### (3) ファシリテーター

シチズンシップ共育企画 代表 川中 大輔 氏

### (4) サポーター

12名の大学生等が参加した。なお、サポーターにワークショップの運営補助等を効果的に行うにあたり必要な知識や技量を身につけてもらうためにサポーター養成講座を開催した。

## (5) ワークショップ開催状況

### ① 開催日、テーマ及び参加人数

回	開催日	テーマ	参加人数
第1回	平成24年 7月31日(火)	奈良市と私の「今」	28人
第2回	平成24年 8月 2日(木)	奈良市と私の「未来」	22人
第3回	平成24年 8月 8日(水)	奈良市と私の「未来」	28人
第4回	平成24年 8月23日(木)	「未来」と「今」をつなぐ	14人
	平成24年 8月24日(金)		12人
第5回	平成24年10月20日(土)	発表に向けてのまとめ	16人
第6回	平成24年11月17日(土)	成果発表会	23人

※ 第4回は参加人数の関係で2回に分けて開催した。

### ② 開催時間及び場所

- ・開催時間 午前10時から午前12時まで
- ・開催場所 奈良市役所会議室

## (6) 子どもたちの提案

子どもたちの提案を奈良市第4次総合計画の施策体系を基に分類した。

### ① 市民生活

#### ア 地域コミュニティ、交流

- ・祭を増やしてほしい(人とのコミュニケーションがとれ、疲れなどから解放される)。
- ・ベンチがほしい(人とのふれあいの場となりコミュニケーションをとる機会が増える)。

### ② 教育・歴史・文化

#### ア 学校教育

##### (ア) 通学

- ・自転車通学の範囲を広げてほしい(遠い人は歩いて30分くらいかかる)。
- ・送迎バスを用意してほしい(雨の日の自転車通学は危険で、歩くと時間がかかる)。

##### (イ) 通学路の安全

- ・自転車と歩行者の通る道を分けてほしい。
- ・点滅信号を時差信号に変えてほしい。
- ・車が見えないところにカーブミラーをつけてほしい。
- ・道路の白線をよく見えるようにしてほしい(消えていて見にくい)。

##### (ウ) 学校の設定

- ・エアコンを設置してほしい(夏や冬も勉強に集中できる・夏休みがなくなり1日当たりの授業数を少なくできる)。
- ・大きい机に変えてほしい(教科書が全部乗らない、机の中に入りきらない)。
- ・机をコの字型にしてほしい(机の面積が広くなり使いやすい)。
- ・休日に校庭を開放し、校庭の設備(サッカーゴール等)を整えてほしい(遊び場が少ない)。
- ・蛇口から大和茶などが出るようにしてほしい。

(エ) 制服

- ・ 全身制服ではなく一部だけにしてほしい（スカートや靴下だけなど）。
- ・ 私服を制服にしてほしい（服を考えるのに苦勞する）。
- ・ 機能的で素敵な制服にしてほしい（着崩さなくてもいいように）。

(オ) いじめ

- ・ 学校のいじめは大人に頼るだけでなく子どもの中で解決したほうがよい。

(カ) 教師

- ・ いじめを見て見ないふりをしないでほしい。
- ・ 生徒に厳しくしてほしい（生徒が甘やかされて教師をなめる）。
- ・ モンスターペアレント等に負けないでほしい。

イ スポーツ振興

- ・ 大きなプールがほしい（のびのびと遊べる場が少なく、奈良には海や湖も無いので）。
- ・ ソフトボール、サッカー、野球などの部活で使える競技場がほしい（遠くの学校に遠征に行くとお金がかかる）。

③ 生活環境

ア 環境保全

- ・ 森を残してほしい（二酸化炭素を削減でき、他の生物にも良い環境を残せる）。

イ 生活・環境衛生

- ・ 街中にゴミ箱を設置してほしい（ゴミ箱がないので空き缶などが散乱する）。
- ・ 公園や商店街のゴミ拾いを地域の皆でやっていくべき。
- ・ ソーラー発電を増やしてほしい（東日本大震災などで原子力発電所の危険性がわかった）。

④ 都市基盤

ア 交通体系

- ・ 公共バスの本数を増やして欲しい（少なくて不便）。
- ・ 観光客誘致のために駅を増やす。
- ・ 新幹線を誘致してほしい（日本各地に行くのに不便）。
- ・ バス代や電車代で大人料金と子ども料金の中の人間料金を作ってほしい（働けないのに大人料金では高い）。

イ 道路

- ・ 入り組んだ狭い道を整備してほしい。

ウ 公園・緑地

- ・ 小さい子どもから大きい子どもまで誰でも遊べる遊具を設置してほしい。
- ・ 公園の外にボールが飛び出さないようにネットを張ってほしい。
- ・ 公園の中を遊具とボールの使用場所を分けてほしい。

## ⑤ 経済

### ア 観光

- ・ 平城宮跡を整備し、民俗村みたいなものをつくってほしい（観光客が少ない）。
- ・ 奈良といえばこれというキャラクターや名物やB級グルメをつくったり、ご当地アイドルなどにより奈良の魅力を全国や国外に発信していく。
- ・ イベントなどを行う際、ご当地キャラクターなどを用いて事前に広告やCMでPRする。
- ・ イベントを開催してその中で新しい名物やキャラクターや歴史を知ってもらう。
- ・ ボランティアを募り、奈良の歴史について劇などで演じ楽しみながら学んでもらう。

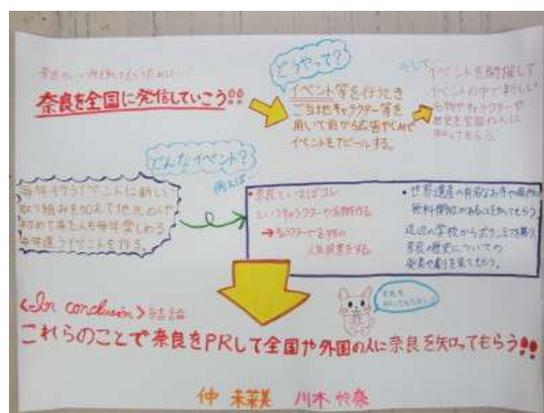
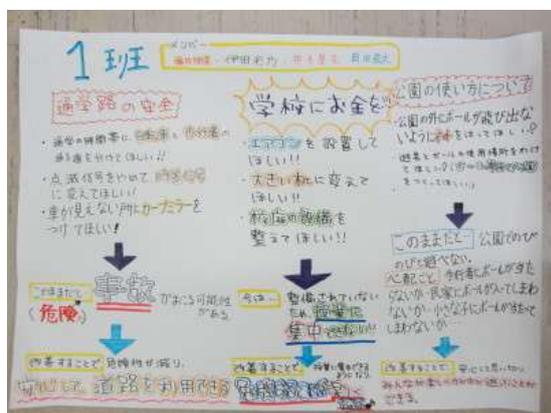
### イ 商工・サービス業

- ・ 閉まっている店が多い商店街はどんどん新しい店を足して元気で明るい華やかな商店街にしてほしい。
- ・ ゲームセンター、遊園地、ショッピングセンターなど遊べる場所がほしい。
- ・ 地域の特産物を作ったが販売店がなかなか見つからないので広報活動などで協力してほしい。
- ・ 子どもも働かせてほしい（家計を助けられるし働く大切さも学べる）。

## ⑥ 基本構想の推進

### ア 市民参画・協働

- ・ 子どもの意見を聴いてほしい。



## 2 平成25年度 未来をひらく子どもワークショップ

### (1) 要旨

子ども条例の制定に向け、その内容を検討するに当たり、子どもたちの意見や思いを「私たちがつくる子ども条例10箇条」として提案してもらうために、夏休み期間に5回のワークショップを開催した。

そして、5回のワークショップの成果を取りまとめ、奈良市子ども条例検討委員会において、参加者の子どもたち10人と条例検討委員による意見交換を行った。

### (2) ワークショップ参加者

奈良市内に在住する小学5年生から中学2年生までの16名の子どもたちが参加した。

### (3) ファシリテーター

シチズンシップ共育企画 代表 川中 大輔 氏

### (4) サポーター

10名の大学生等が参加した。なお、サポーターにワークショップの運営補助等を効果的に行うにあたり必要な知識や技量を身につけてもらうためにサポーター養成講座を開催した。

### (5) ワークショップ開催状況

#### ① 開催日、テーマ及び参加人数

回	開催日	テーマ	参加人数
第1回	平成25年8月 1日(木)	仲間と出会い、奈良を見つめる	8人
第2回	平成25年8月 5日(月)	私たちの声を届けよう！(1)	12人
第3回	平成25年8月 7日(水)	私たちの声を届けよう！(2)	11人
第4回	平成25年8月19日(月)	私たちの声を聞いてもらおう！	15人
第5回	平成25年8月21日(水)	私たちがつくる子ども条例10箇条	14人
	平成25年8月23日(金)	奈良市子ども条例検討委員との意見交換	10人

#### ② 開催時間及び場所

- ・開催時間 午前10時から午前12時まで  
(※奈良市子ども条例検討委員との意見交換のみ午後1時から午後2時30分まで)
- ・開催場所 奈良市役所会議室



### (6) 子どもたちの提案

ワークショップで編成した3班が、それぞれ5回にわたるワークショップの成果として「私たちがつくる子ども条例10箇条」を作成した。

#### 1 班

- 1 学校に先生の意見を聞けるような意見箱をおく
- 2 学校に生徒の意見箱をクラスごとに置く
- 3 学校は学校を良くするための自由なお金を持ち、環境を良くする
- 4 大人は上から目線でなく、子ども目線で考えてほしい
- 5 大人は子どもの考えをもう少しちゃんと聞く
- 6 大人は子どもに注意するだけでなく、大人もルールを守ってほしい
- 7 大人は子どもが意見を言いやすい場をできるだけつくる
- 8 解決できないことは、しっかりその理由を言ってほしい
- 9 難しい言葉ではなくわかりやすい言葉を使ってほしい
- 10 子どもの遊び場を駅前(よく行く場所)に置いてほしい

## 2 班

- 1 アンケートに名前を書くか自分で決めさせてほしい
- 2 言いにくいことも目安箱などを使って言いやすいような環境をつくる（名前は自由に書く）
- 3 部活間での取り決めに生徒も参加させてほしい
- 4 子どもも部活のお金のことについて意見させてほしい
- 5 学校（移動教室）などについて生徒も話し合いにまぜてほしい
- 6 先生は私たちの提案の実現のために、何をしたかきちんと教えてほしい
- 7 2人以上が納得した意見を先生がまともに受け取ってほしい
- 8 大人も子どもも1人1人を平等な目で見えてほしい

## 3 班

- 1 大人は歩きタバコやタバコのポイ捨てをしてはいけない。また分煙もすること！
- 2 休み時間を場合によって増やしてほしい（移動教室、体育）
- 3 タブレット授業を導入
- 4 図書館、駅、公共施設に無料の駐輪場を作る
- 5 学校の環境を整えるべき（教室にクーラー設置義務と運動場拡大）
- 6 いろんな遊具がある公園を作る
- 7 道路の質を改善すべき（車道、自転車道、歩道を分ける、街灯を増設）
- 8 本数が少ない路線バスを増やす
- 9 自分勝手な話し合いにしない
- 10 大人も子どもも平等に扱ってほしい
- 11 最後まで話を聞いて頭ごなしに否定しない
- 12 質問しすぎず、しなさすぎず、適当な振り方をする
- 13 中学生などが気軽に集まれる場所を地域に一つ作るべき
- 14 みんなの意見が言える場（反映できる）または目安箱を設置する



### 3 未来をひらく子どもシンポジウムにおける意見交換

#### (1) 要旨

子ども条例の意義を市民と共に考えるためにシンポジウムを開催した。その中で、子どもワークショップ参加者と仲川市長、子ども条例検討委員による意見交換を行った。

#### (2) 日時及び場所

平成25年5月19日（日）午後1時から午後3時30分  
はぐくみセンター 大講座室（奈良市三条本町13-1）

#### (2) テーマ

「私が奈良市長だったらこんな奈良市にしたい」

#### (3) 参加者及び来場者

##### ① 参加者

- ・子どもワークショップ参加者 7人
- ・仲川市長
- ・子ども条例検討委員会 浜田委員長、木下副委員長、都築委員

##### ② 来場者 147名

